

2019年5月8日 ドイツ・ミュンヘン

2019年度 第2四半期決算

期間:2019年1月1日~3月31日

2019年度上半期も堅調、通年の好業績に向け貢献

「今期も目標達成でき、多くの分野で期待を上回る成果を得ました。今こそ、より強く、よりフォーカスした企業へと、シーメンスの新たな時代がはじまります。」— ジョー・ケーザー、シーメンスAG社長兼CEO

- 名目ベースで、受注は6%増の236億ユーロ。売上は4%増の209億ユーロ。出荷受注比率は1.13。受注残は過去最高の1,420億ユーロ。
- 為替の影響およびポートフォリオの効果を除く比較可能ベースで、前年同期比で受注は4%増、売上は2%増。
- インダストリービジネスの利益(Adjusted EBITA)は、大部分の事業の業績が好調で、7%増、インダストリービジネスの利益率は、0.3%となった退職手当費用により押し下げられるも、11.4%を達成。
- 純利益は19億ユーロで、ポートフォリオ中央管理活動(CMPA)による利益(Adjusted EBITA)が7億ユーロあった前年とほぼ同レベル。今期は、法人税率減少の恩恵を受け、基本1株当たり利益(Basic EPS)は、退職手当費用により0.08ユーロ押し下げられ、2.24ユーロとなった。

Siemens

(単位：100万ユーロ)	第2四半期		増減 (%)	
	2019年度	2018年度	実質	比較
受注	23,607	22,318	6%	4%
売上	20,936	20,141	4%	2%
利益				
インダストリービジネス	2,406	2,254	7%	
内、退職手当	(67)	(130)		
利益率				
インダストリービジネス	11.4%	11.1%		
退職手当を除く	11.7%	11.7%		
継続事業からの利益	1,926	1,974	(2) %	
内、退職手当	(91)	(161)		
純利益	1,923	2,018	(5) %	
基本1株当たり利益 (単位ユーロ)	2.24	2.39	(6) %	
フリーキャッシュフロー (継続事業と非継続事業)	(487)	791	(38) %	
ROCE (継続事業と非継続事業)	14.8%	16.6%		

- 受注高は引き続き堅調。特に大規模受注で記録的な受注高を達成したモビリティ事業の急成長が牽引。さらに、Siemens Healthineers、エナジーマネジメント事業、ビルテクノロジー事業も成長。シーメンス・ガメサ・リニューアブル・エナジー (SGRE) は大幅減。
- インダストリービジネスの大半で売上増。Siemens Healthineers、プロセスインダストリー&ドライブ事業、SGRE の成長が牽引。パワー&ガス事業は緩やかな売上減。
- 出荷受注比率は 1.13 と堅調。受注残は過去最高の 1,420 億ユーロ。
- 為替およびポートフォリオ取引：前年同期比で受注および売上を 2%押し上げる。ポートフォリオ取引は前年同期比の売上高にほとんど影響せず。
- インダストリービジネスの利益(Adjusted EBITA)：大部分のインダストリービジネスで増加。デジタルファクトリーと Siemens Healthineers の成長がインダストリービジネスの利益率(Adjusted EBITA)に対し最大の貢献。
- インダストリービジネス以外：ファイナンシャル・サービスが大幅増、主に投資株式の売却益による。前年同期のポートフォリオ中央管理活動 (CMPA) の利益(Adjusted EBITA)は 7 億 3,100 万ユーロには、AtoS 株式の Siemens Pension-Trust e.V.への移譲による 9 億ユーロの利益を含む。
- 継続事業からの利益および純利益：ドイツ以外の所得税引当金の課税取消による大幅な法人税減少の恩恵。前年同期には、上記の Atos 株式の大規模な無税取引が含まれる。
- フリーキャッシュフロー：デジタルファクトリー事業が主に貢献。インダストリービジネスは 10 億 4,100 万ユーロ。インダストリービジネス以外は、大幅な法人税負担を含みマイナス。
- 年金引当金および類似債務は 2019 年 3 月 31 日現在で 94 億ユーロに微増。(2018 年 12 月 31 日現在は 92 億ユーロ)
- ROCE (使用資本利益率) は堅調な純利益により目標レンジの近似値。

将来の業績に関する見通し

このリリースには、過去の出来事ではなく、将来の業績に関する見通しや情報が含まれています。「期待する」、「予想する」、「意図する」、「計画する」、「信じる」、「模索する」、「推定する」、「予定する」といった言葉やその類義語は、将来の業績に関する見通しに該当する可能性があります。こうした見通しは、当社の現時点での予測と一定の前提に基づいており、したがって、特定のリスクや不確実な要素に左右されることがあります。シーメンスの事業活動、事業戦略、業績に影響を及ぼす要素はさまざまで、その多くはシーメンスには制御不可能なものです。そのため、シーメンスグループの実際の業績、活動、成果は、こうした将来の業績に関する見通しの記述や暗示とは大きく異なる可能性があります。特定の不確実な要素には、景気や取引状況の変化、為替動向や金利の変化、他社による競合製品・技術の導入、シーメンスグループの新しい製品・サービスの不振、事業戦略の変化やその他のさまざまな要素の変化などが含まれます。万一、これらのリスクや不確実な要素が現実のものになれば、実際の業績は将来の業績の見通しの予想、確信、予測、期待、意図、計画、予測とは大きく異なる可能性があります。シーメンスは、将来の業績に関する見通しの作成後に発生する出来事に照らして見通しを更新、修正する意図はなく、またそうした義務を負うものではありません。

【参考資料】

本資料はシーメンス AG(ドイツ・ミュンヘン)が 2019 年 5 月 8 日(現地時間)に発表したプレスリリースの一部を日本語に抄訳したものです。本資料の正式言語はドイツ語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。原文プレスリリースおよび関連資料は以下の URL よりご覧いただけます(英文)。

<https://www.siemens.com/press/PR2019050258COEN>

報道関係からのお問い合わせ先:

シーメンス株式会社

コーポレートコミュニケーション部 今村

E-mail: masako.imamura@siemens.com